KAMEDAJIMA

| はにかむエブリデイ |

亀田の郷の縞だより

「はにかむ」=しょしがり（はずかしがり）な亀田の人々、「ハニカム」＝自然界に存在する丈夫で美しい亀の甲羅の構造。
強くて優しい亀田縞と、この地にくらす人々をイメージしています

令和6年
010

亀田縞利用促進協議会

Person

まちの駅 亀田の郷 スタッフの皆さん

人が行き交うくらしの基点
まちに寄り添うステーション

交通量が多く、ともすると見のがしてしまいそうな亀田駅前通りの小さなお店。開店早々からお客さんが入れ替わり訪れ、いそがしい一日がはじまりました。

地元の食材や町の特産品を取り揃える「まちの駅 亀田の郷」は、地域活性化を目的に、事業主たちが出資して平成16年にスタートしました。店頭には、農家の朝採り野菜や、人気カフェの薫り高いコーヒー、まちの名物和菓子、割烹による手作り総菜などが並ぶほか、福祉作業所に仕事を依頼して雑貨を作ったり個人の趣味のハンドメイド製品も預かるなどバラエティ豊か。「まちの駅」の名のとおり、様々な人が、思い思いの目的で交差する、生活の基点といえるスポットです。

そういえば、前に立川織物がこのお店の事を「うちが今の形で亀田縞をやっていこうと決めるきっかけになった店なんだよ」と話してくれたことがありました。

まちの駅開店の頃、立川織物は、いったいこの先亀田縞をどう進めていけばよいのか五里霧中、試行錯誤の毎日でした。そんなある日ここの代表から、「この店で布だけをたくさん買ってもらうのはむずかしい。売れる製品は何かを考えてほしい」とアドバイスをもらい、それをきっかけに縫製できる人を探し、その縁で今につながる仲間やパートナーにも出会い、自分たちのあり方=亀田縞を土産品として安売りすることなく、時間がかかっても売れる上質なものに育てていこう、と目指す道が開けたのだそう。

それから20年。今、まちの駅には2社の機屋の亀田縞製品が揃い、4名のスタッフはそれぞれお気に入りの亀田縞のエプロンを身につけ、優秀な営業ウーマンぶりを発揮しています。お客さんとの会話から似合いそうな縞柄を選んで広げると、鏡の中はたちまち笑顔に。そうしてオーダーを受け、意見や感想など伝えて機屋に繋ぎます。

今日も店内は目まぐるしく、なのにどこかのんびりと時間が流れています。それがまちの営みに寄り添って人々の日々に小さな幸せを運ぶ、「くらしの最寄り駅」が持つ包容力なのかもしれません。

1.この日かっぽう着を買いに来た女性はスタッフと相談しながら楽しそうに布を選んでいた。どうしても、と西区から息子さんの車で訪れたのだそう。
2.朝採り野菜は農家さんが交替で持ち込む。梨や柿などのフルーツや、銀杏やかきのもといった旬の食材、かわいい花々。豊かな気持ちになるものばかり。